

新生児ウイルス性中枢神経系感染症に関する全国実態調査報告

(財) 田附興風会医学研究所北野病院小児科

鳥 居 昭 三

目 的・方 法

本邦における新生児ウイルス性中枢神経系感染症の実態を把握し、新生児脳のウイルスによる傷害に基く心身障害発症の意義を究めるため、新生児無菌性髄膜炎、脳炎に関するアンケート調査を行った。調査対象は、NICUを持つ診療施設、大学附属病院、臨床ウイルス・小児神経学に造詣の深い施設など計370カ所で、回答206件(55.6%)を得た。

結 果

下記は昭60.2.5迄の回収結果による。

(1) 散发例：①最近5年間(昭55~59年)に203施設中89施設(43.8%)で無菌性髄膜炎370例、脳炎51例、計421例をみた(Fig.1) ②診断方法：髄膜炎でウイルス判明例は67例(18.1%)、脳炎は23例(45%)にすぎないが、前者の57例(85%)、後者の15例(65.2%)はウイルス分離により、他は抗体価上昇、剖検などで診断された。③年度別：59年に症例の急増を認める(計163例)。④季節：概ね夏より秋に及ぶが、脳炎は他の季節にも認めた。⑤起因ウイルス：無菌性髄膜炎67例中63例(94%)はエンテロウイルス(EV)で、coxsackie B₃(17例)、B₅(8例)が比較的多い。また当該年度の全国主要流行型に類似の傾向を認める。脳炎では単純ヘルペス12例、CMV 6例、EV 5例であった。⑥予後：1才時の予後は脳炎群に不良で、判明22例中、死亡9(40.9%)、後遺症8(36.3%)。一方、髄膜炎は後遺症1例のみであるが、今後更に検討を要する。⑦母体の症状：髄膜炎59例中46例(77.9%)、脳炎23中15例(65.2%)に認めず、発熱や産科学的異常の多い細菌感染症の場合に比べ、著るしい対照を示し、無症状、不顕性感染の母体よりの垂直感染の重要性をも示唆している。

(2) 施設内流行例：新生児室など施設内での無菌性髄膜炎を伴うウイルス感染症流行は、①過去に於て32施設(18.1%)に40回にみられ、同一施設で2回以上流行したのも5施設、3回流行をみたもの2施設に及んだ。②年度別：58.59年度に急増している。46年度の件数は全国的なecho-11の流行の反映と解される。(Fig.2) ③季節：大部分が夏→秋で、一部に厳冬にもみられた。④病源ウイルス：流行40件中25件はEVによる。15件は起因ウイルス不明であった。他に髄膜炎の証明されなかったEV院内感染6件がある。EV25件中10件はecho-11であり、echo-11の著るしい親和性が注目される。⑤流行日数：一旦、EVが新生児室内に侵入すると長く潜在し(最長は8カ月間)、20日間ないしそれ以上の流行が15件(60%)を占める(Fig.3)。⑥罹患率：在院接触児の25%以上の感染は25件中20件(80%)に及び、うち5件は50%以上が感染している。⑦臨床症状：発疹、下痢など多彩であるが、発熱はEV群に100%、病源不明群に86.6%にみた。髄液検査を全例に施行したか、一部に、又は全く施行しない場合では、罹患児数に占める髄膜炎の合併頻度に差異がみられ、全例に施行した場合、14件中9件は症例の100%に髄膜炎を証明。一部施行では3~80%の合併であった。⑧感染源：EV19件中、同室の他の新生児(7件)もしくは家族とするもの3件、母又は家族とするもの5件に対し、看護婦など従業員との推定は4件にすぎず、感染源は職員との推測がむしろ少い。⑨栄養方法：86.6%が母乳のみ又は主として母乳に依っていた。⑩未熟児(低出生体重児)は罹患児の18.1%にすぎず、個々の保育器による感染の伝播防止が推測される。⑪新生児室での使用消毒剤：EVに効果の希薄なグルコン酸クロルヘキシジン系が第1位(86.6%)であった。⑫NICU又は新生

児室への家族の入室の可否：記載32件中、可とするもの21件が、不可11件の2倍に及んでいた。

結 論

①新生児のウイルス感染による脳傷害の主因としてエンテロウイルスは最も重要であること、②新

生児（室）の管理運営上、EVの院内感染は緊急の課題と考えられ、予防には個々の散発例の早期確診と、早期隔離が重要と考える。③今回は1回限りの調査であり、設問内容の複雑化を防ぐため、診断は各施設の基準に依ったが、“今後”は「前年度設定した診断基準」に基づいて診断されることが望ましい。

一 散 発 例 — 421例

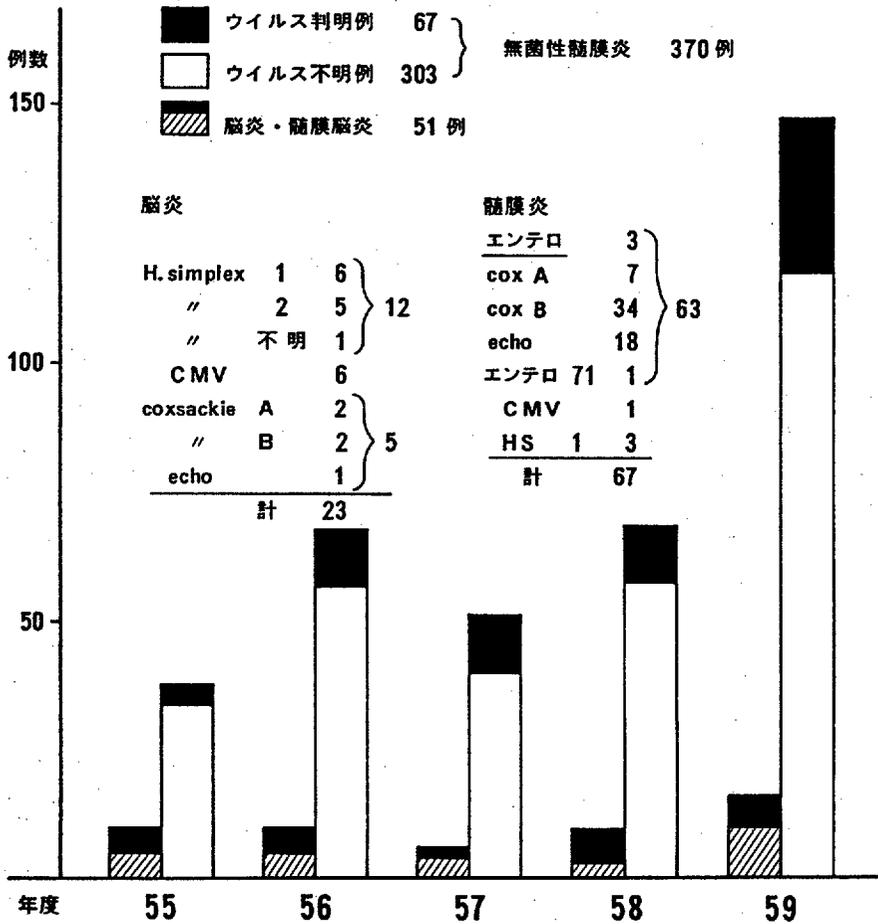


Fig. 1

無菌性髄膜炎を伴う施設内水平感染* 40

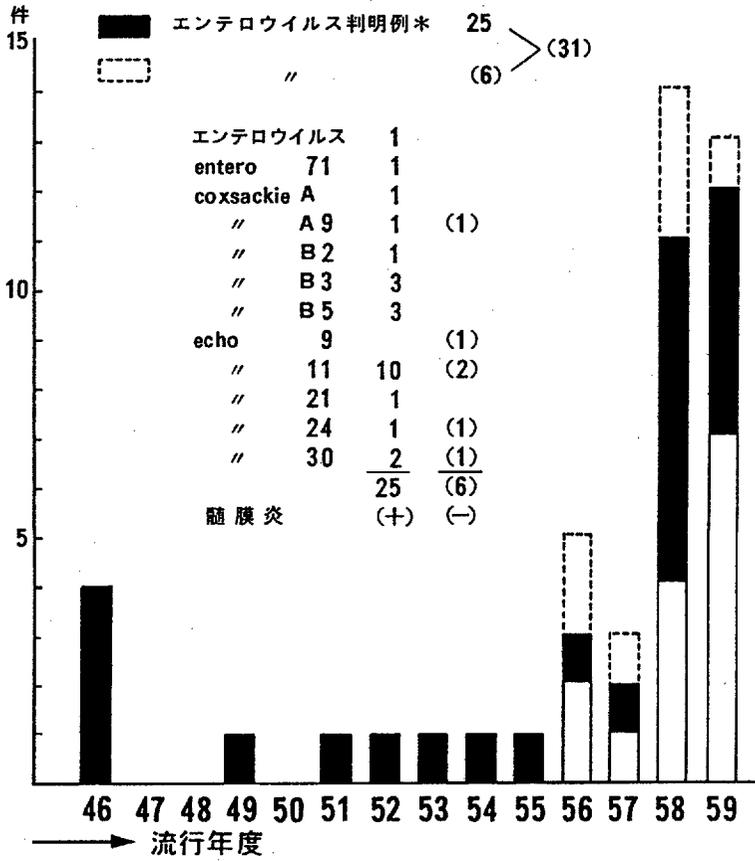
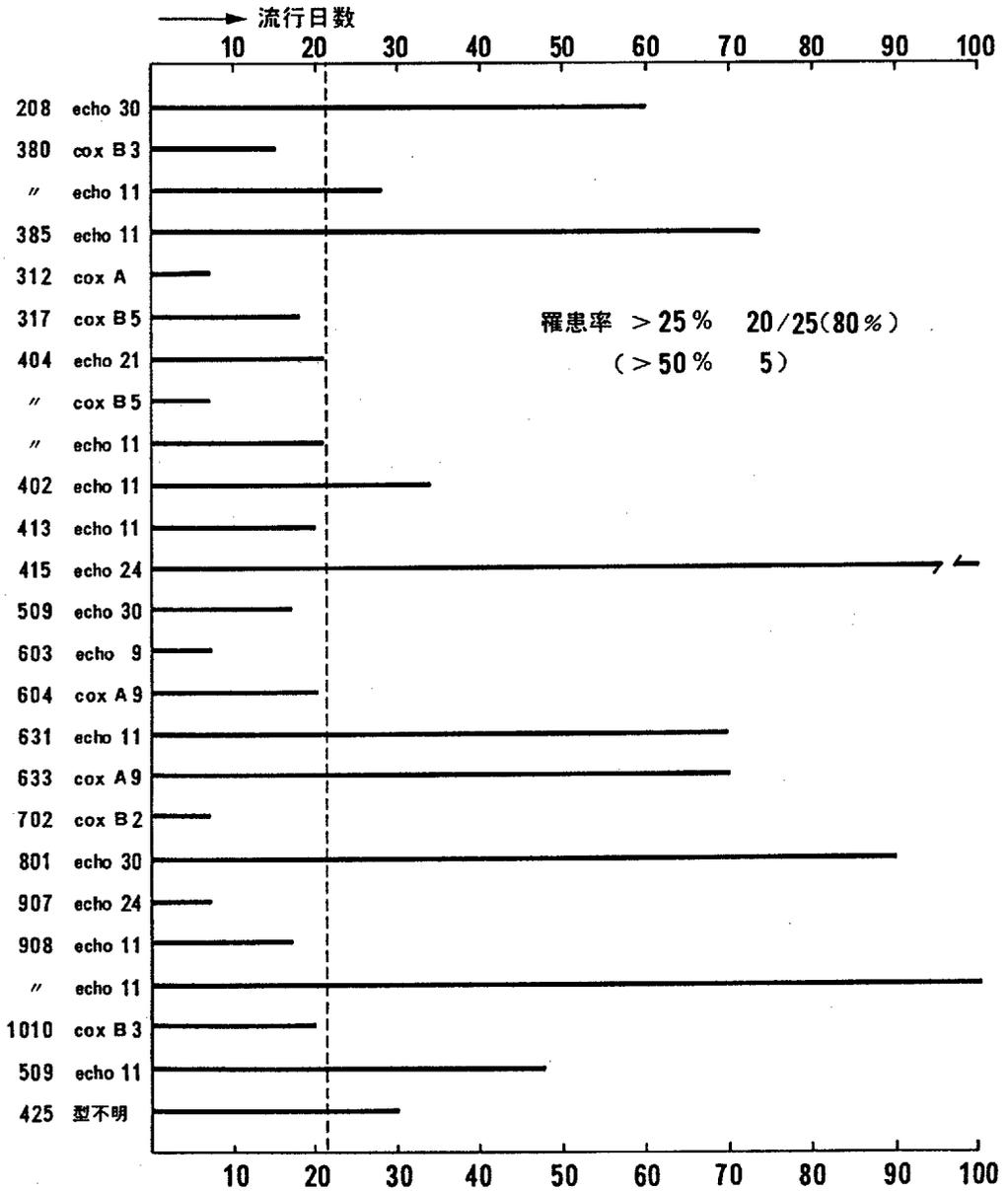


Fig. 2



新生児室内流行日数

エンテロウイルス

(n=25)

Fig. 3



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的・方法

本邦における新生児ウイルス性中枢神経系感染症の実態を把握し,新生児脳のウイルスによる傷害に基く心身障害発症の意義を究めるため,新生児無菌性髄膜炎,脳炎に関するアンケート調査を行った。調査対象は,NICU を持つ診療施設,大学附属病院,臨床ウイルス・小児神経学に造詣の深い施設など計 370 力所で,回答 206 件(55.6%)を得た。